

エンドウの栽培

1 栽培のポイント



- ・ 水はけと日当たりの良い場所を選ぶ。
- ・ 酸性土に弱い。
- ・ 連作を嫌うので、3～5 年間は同じ場所につくらない。

2 特 性

- ・ 寒さには強いが、暑さに弱い作物で、生育適温は 15～20℃です。
- ・ 5℃以下では開花数が少なく、25℃以上では生育が悪くなります。
- ・ 食べる部分でサヤエンドウと実エンドウに、さらに両方を食べるスナップエンドウに分けられます。
- ・ また、草丈によってわい性種と高性種に分けられます。

3 畑の準備



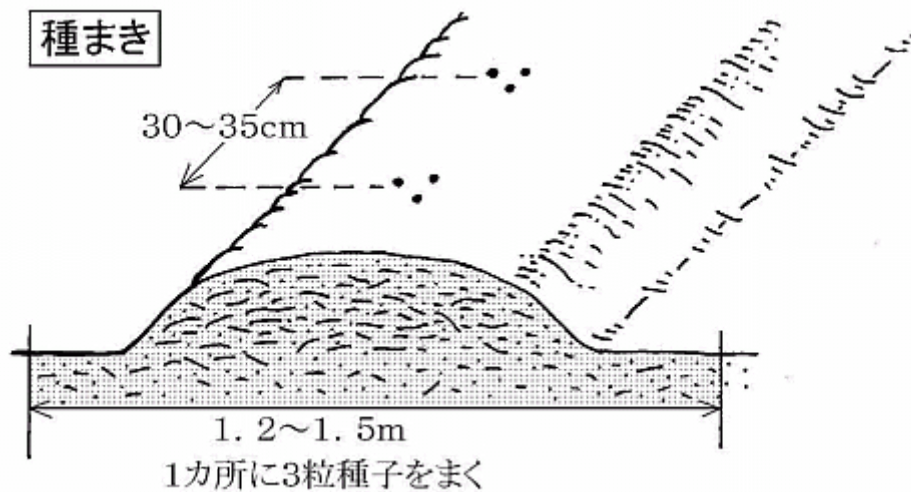
- (1) 10 m²当たり、堆肥 20kg と石灰 1kg を施して耕します。
- (2) 基肥に化成肥料を 10 m²当たり、400g 施します。
- (3) 高さ 15 cm 程度の畦をたてます。畦幅はわい性種で 90cm、高性種で 1.2～1.5m の1条植えにします。畦の方向は南北畦が生育が良いです。

注) ナスなどの果菜類の後作や肥沃な畑では、基肥を半量か無しで始めます。

4 種まき

- ・ 種まきは、10 月下旬～11 月中旬におこないます。
- ・ 株間 30～35cm(スナップは 20 cm) 間隔に 3 粒程度点播きして、1.5cm ほど覆土します。

注) スナップエンドウは、早播きして大きくなりすぎると寒害を受けやすいので 11 月中旬播きとします。



5 管理

(1)中耕・土寄せ

- ・ 年内に、軽く中耕除草と土寄せをします。

(2)防 寒

- ・ 12月中下旬に株元に薄く堆肥などを敷くとともに、畦にワラを立てかけるか、支柱を早めに立て、地上30cmくらいに縄またはテープを張って、ワラなどをたれ下げます。敷きワラの上に出たつるはよけいに寒害を受けやすいので注意します。

(3)かん水

- ・ 冬期や開花期以降に乾燥が続くときは、暖かい日の午前中にかん水します。

(4)支柱立て

- ・ つるが伸び始める頃までに、長さ2.1m位の支柱を垂直に立て、最上段は針金を張り、最下段は地面から30cmとし、その上から45cmおきにテープを3段に張ります。面積が広いときはキュウリネットなどを利用すると便利です。

(5)追 肥

- ・ 追肥は開花始めごろから1~2回に分けて施します。
- ・ 1回の施用量は、化成肥料を10㎡当たり、200~300g程度とします。

(6)つるの仕立て方

- ・ 3月下旬以後に発生する側枝は、早めに摘み取り過繁茂を防ぎます。

6 病虫害防除

- ・ 立枯病は、連作を避け排水を良くします。
- ・ アブラムシの発生に注意し、早めに防除します。

7 収穫

- ・ サヤエンドウは種がふくらむまでには収穫します。
- ・ 実エンドウは、種が十分ふくらみ、さやの緑色が抜け始めるころに収穫します。

[\(戻る\)](#)